

# 生存科学研究ニュース

VOL. 12. NO. 1

1997. 1. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

年 頭 所 感  
「生存福祉」研究のすすめ  
理事長代行 江見 康一

1996年を締め、1997年を迎える。「1年の計は元旦にあり」といわれるが、その「計」は、過去の動向を踏まえ、新しい年への期待を込めて自らの計画、目標を掲げることである。



そのためには、まず96年がどのような年であったかを省みる必要がある。例年、年末になると、新聞社が10大ニュースの素材となる事柄を整理して報道してくれる。それらを見ていると、現在の日本の社会が抱えている病巣とか、風潮が浮かび上がってくるように思われる。

過ぎし95年は、阪神・淡路の大震災でショックを受け、オウム事件にふり回された。96年はそのオウム事件の余波が続いたが、それは別として他にいくつもの大事件がつぎつぎ起きた。そこで新聞記事を手がかりに、特に保健・医療・福祉に関連のある事象を拾ってみると、次の項目があげられる。

①末期患者「安楽死」問題、②0-157の大量感染、③アトランタ5輪での日本勢の不振、④薬害エイズ問題、⑤100歳以上の高齢者7000人突破、⑥

特養ホームへの補助金交付にからむ収賄容疑、  
などである。これらをさらに大きく3つに括ってみると、

- (1)日本人の体力、生殖能力に関するもの
- (2)医療・薬剤の適用と生命倫理
- (3)高齢化の進行と福祉行政のあり方

というようになる。

アトランタ・オリンピックで日本勢の不振が伝えられた時、一体なぜ日本はこうも弱くなったんだらうと思ったが、それと0-157の大量感染の時期とが重なったこともあって、日本人、特に青少年の体力、耐菌力が近年低下傾向を続けているのではないか、という危惧が感じられた。それは、文部省が毎年発表する小中学生の体力テストの結果からもうかがわれる。

成熟社会におけるハイテク化、飽食の時代、結婚観の変化など、それらを含むライフスタイルの著しい変化を通じて、生活の利便性、快楽性を追求してきた文明化のツケが、生物としての人間のもつ生命力を弱める結果となっているのではないか。別言すれば、利便性追求からくる人体への一種の過保護状態が、人間が生体としてもつ外界からの変化に対応する自律的調節機能を後退させているのではないか、と思う。

確かに戦後の経済成長を通じる所得水準の上昇と相俟って、医学・薬学の進歩と社会保障制度の

充実が日本人の平均寿命を伸ばし、いまや長寿社会を謳歌するまでになったが、果たしてそれは「健やかに老いる」ことを保障するものであろうか。むしろ長寿化のもう1つの面として、安楽死をめぐる生命倫理の新しい問題が生じているし、年々増加していく要介護老人のケアの受け皿としての福祉施設の拡充と厚生行政の関わり方が問題視されている。

このような事態に対する意識のうえでの未熟さや対応するシステムの準備不足が、いろいろな形で噴出したのが96年における一連の事件ではないか、と考える。

これらを含めて、私たちは今改めて「福祉とは何か？」を問い直さねばならない。かつて、武見太郎氏は「生存福祉」という概念を唱えられ、それは社会環境の変化に対して、生体としての人間がより良くアダプトしうる能力、と定義されたように思う。とすれば、96年のニュースとして先に掲げた諸事件への対応も、これを「生存福祉」という視点からみた場合、どう捉えられるかを考えてみる必要がある。

医療福祉分野の制度について、いま大きな問題となっているのは医療保険の改革と公的介護保険の導入であるが、これらについてはすでに改革案や法案が準備され、国会への上程が予定されている。医療保険の改革については、主として財政的視点から、給付率の引き下げや患者負担増加の方向が打ち出され、また公的介護保険については、第一線の市町村の受け入れ体制が不十分なまま、見切り発車をしようとしているように見受けられる。財政危機といわれる厳しい経済環境の中で、財政的切り口から考える限り、それは止むを得ない選択かもしれないが、それに対して「生存福祉」という長期的視点を採り入れて考えると、ど

ういう対応ができるだろうか。

この設問は、生存科学に向けられた1つのチャレンジでもある。したがって、生存科学研究所の新しい研究計画として、たとえば次のような研究テーマはどうであろうか。

(1)生命倫理と環境倫理と地球倫理

(2)生存科学から見た医療保険改革と公的介護保険の導入  
のような課題である。

生存科学研究所は、「生存の理法」についての基礎理論とその体系化を彫琢する一方で、それを我々が日常的に遭遇する現実の諸問題の解決に結びつける実践的研究を怠ってはならないと思う。そのためには、医療福祉関係の会員とのコミュニケーションを密にし、共通の関心事としての「生存福祉」の研究に積極的に取り組まねばならない。これが97年の年頭に当たっての筆者の念願である。

#### 第10回「生存科学基礎論」研究会 生存科学の課題と方法

平成8年11月28日(木)午前11時から、生存科学研究所会議室において表記の研究会が開催され、本研究会の座長であり、前八千代国際大学学長の板垣 與一氏が「生存科学の課題と方法——A Long Way to Seizon Science——」と題して発表を行い、次いでそれを話題に質疑応答が行われた。要旨は以下の通り。

この論題に対して、板垣先生は長年に渡り、絶えず探究し、整理されてこられ、今回も生存科学成立への歴史的展望を試み、生存科学の課題と方法について、若干の試論的テーゼの提起を企画しただけであると大変謙虚な前置きをして次のよう

なタイトルを揚げ、その詳細についてご説明になられた。

#### I 科学観（学問観）の変遷

- (1)自然科学 (2)歴史科学 (3)文化科学
- (4)精神科学 (5)社会科学 (6)生活科学
- (7)現実科学

#### II 個別社会諸科学の展開

- (1)政治学 (2)経済学 (3)社会学

#### III 20世紀の精神的状況

- (1)文明論的視座 (2)認識論から存在論へ
- (3)ハイデガーの実存論的・存在論

#### IV 現代産業文明の危機的状況

- (1)ハイテクノロジーの進展
- (2)高度大衆消費社会 (3)成長の限界

#### V 生存科学への道

- (1)基礎的根源的「経験科学」として
- (2)理論的・歴史的・実践的な「総合政策科学」として
- (3)超学際的な「統合科学」として
- (4)「人間的・社会的・歴史的現実」と近代合理主義的パラダイムの超克
- (5)南北問題と地球環境問題
- (6)1.生命倫理
  - ①生命科学 ②バイオエシックス ③健康科学
  - ④生死の科学（バイオサナトロジー）
- 2.民族倫理
  - ①比較文明 ②比較文化 ③比較宗教
  - ④エスノナショナリズム
  - ⑤マルチカルチャリズム
- 3.環境倫理
  - ①産業生態科学 ②経済倫理学
  - ③地球環境問題 ④持続的成長
  - ⑤Globalism, Regionalism, Transnationalism

#### IV 結語

生存科学とは、先端科学技術の進展の帰結としての現代産業文明の危機的精神史的状況に挑戦すべく、生命倫理、民族倫理、環境倫理に焦点を当てた「生存の理法」を確認し、人間、民族、人類の「生存の秩序」の創造的形成を目指す実践的「政策科学」であり、理論・歴史・政策の統一認識としての「総合科学」である。

#### レオンチェフ文庫3者会談

12月11日、中央大学、生存科学研究所、パパイオス3者によるレオンチェフ文庫契約書に関する会議が開催された。

まず、中央大学渥美総合政策学部長より、中央大学がレオンチェフ文庫の寄託を引き受けるに至ったいきさつについて、経過報告がなされた。また、この寄託が民法で通常使われている寄託の概念とは異なり、むしろ信託に近いものであり、契約書では寄託の前に「特別」という文言を加えることで、その精神を反映させるに至った点についての説明がなされた。

今後の予定として、中央大学経済学部長の米田先生より、中央大学は受け入れ準備委員会が解散し、運営委員会の元に協力委員会を年2回くらい召集し、今後の運用の在り方について検討していきたい旨、希望が述べられた。

当面、レオンチェフ文庫は経済研究所の1室に保管、近い将来、同じ多摩のキャンパスにある政策文化総合研究所に移管する予定とのことであった。

## 平成8年度第2回常務理事会

平成8年度第2回常務理事会が、11月28日(木)午後1時30分から、生存科学研究所内会議室において開催された。出席者は、江見副理事長・理事長代行他5名であり、江見氏が議長に就任し、当財団が直面している諸問題並びに来年度事業計画等について、活発に討議がなされた。

### 1. 財政状況と対策

ここ数年来の金利低下にともない、主要な基本財産運用収入が、大幅に減少しており、このままだと、事業活動遂行が難しくなる為、対策として、寄附行為に準拠した上で、基本財産の運用替えを実施することとなった。具体策については、次回、検討することとなった。

### 2. 平成9年度事業計画について

次年度からは、新たに、現実的な研究を開始することとし、具体案については、次回、協議することとなった。

### 3. その他

レオンチェフ教授(ノーベル経済学受賞者)から、現在贈与を受けつつある書籍や資料の保管や有効活用について  
川崎病研究に係わる公益信託設定について  
事務所の設備変更について  
池田事務局長の後任について  
などの報告と討議が行われた。

## 研究所日報

11月28日(木) 第10回生存科学基礎論研究会  
11月28日(木) 平成8年度第2回常務理事会  
12月11日(水) レオンチェフ文庫3者会談  
12月12日(木) 川崎病研究会責任者との話合  
12月20日(金) レオンチェフ文庫協力委員会